

系統豚の組合せ試験

杉山 昇・大田 均・瀬川 隆・松元計士・横山純夫 (鹿児島県畜産試験場)

NOBORU SUGIYAMA, HITOSHI OTA, TAKASHI EGAWA, KAZUHITO MATSUMOTO and SUMIO YOKOYAMA :
Comparative Performance of Different Strain Cross

系統豚は他の系統豚と交配し、2元あるいは3元雑種を作ることにより、高い繁殖性と産肉性が期待される。そこでパークシャー種系統豚を用いて3元雑種を生産する際の組合せ試験を実施したので報告する。

第1表 交配組合せ

交配雌	交配雄	D (2頭)	W (3頭)	H (2頭)	B (2頭)
BL (25頭)		6	8	11	—
LW (12頭)		—	—	—	12

1. 材料および方法

1) 供試豚および交配組合せ 交配組合せは第1表のとおりで、①パークシャー系統豚「サツマ」雌に、農水省白河種畜牧場茨城支場ランドレース系統豚「クニエル」雄を交配して生産されたBL雌に、交配雄として茨城支場デュロック系統豚(6世代)、大ヨークシャー(5世代)、宮崎種畜牧場ハンブシャー系統豚「サクラ101」の組合せと、②県内の一般のLW雌に、「サツマ」の雄の交配による組合せにより、BL・D、BL・W、BL・H、LW・Bを生産し、これらの産肉能力と、BLとLWの繁殖能力についての比較を行った。

2) 飼養管理および試験期間 肥育試験豚には豚産肉能力検定飼料(DCP 12.0%, TDN 70.0%)を検定基準に従って給与し、飲水は自由とした。繁殖試験については1983年10月に交配を開始し、1984年9月に分娩を終了した。肥育試験については1984年5月に調査を開始し、1985年1月に調査を終了した。

第2表 繁殖成績

区	交配頭数 (頭)	受胎頭数 (頭)	受胎率 (%)	子豚頭数(頭)			育成率 (%)	子豚体重(kg)	
				生時	哺乳開始時	離乳時		生時	離乳時
BL	25	24	96.0	9.13	9.04	8.25	91.2	1.29	5.66
LW	12	12	100.0	10.92	10.08	10.00	99.2	1.23	5.11

第3表 肥育成績

区	例数(頭)			一日平均増体重 (g)	飼料要求率	脊腰長Ⅱ (cm)	背脂肪の厚さ(cm)		ロース断面積 (cm ²)	ハムの割合 (%)
	♂	♀	計				背	三部位平均		
BL・D	9	9	18	719.6 ^a	3.32	69.4 ^a	1.58	2.58 ^a	25.1	31.0 ^a
BL・W	14	12	26	763.4 ^b	3.19	71.1 ^b	1.73	2.92 ^b	23.3	30.8 ^a
BL・H	17	18	35	740.3 ^a	3.29	69.9 ^a	1.57	2.51 ^a	24.5	30.9 ^a
LW・B	24	21	45	766.4 ^b	3.26	71.9 ^b	1.68	2.82 ^b	24.0	30.1 ^b

注) ^{a, b} 異符号間に有意差 (P<0.05)

2. 結果および考察

1) 繁殖成績は第2表に示した。成績はすべて初産のものであるが、子豚頭数は分娩時、哺乳開始時、離乳時のいずれもLWがBLより多かったが有意差は認められなかった。子豚1頭当たり体重は生時、離乳時いずれもBLがLWよりやや大きかったが有意差は認められ

なかった。

育成率はBL、LWともに90%以上であった。

2) 肥育成績は第3表のとおりで、一日平均増体重と背要長ⅡではLW・B、BL・WがBL・H、BL・Dよりも大きく両者の間には5%水準で有意差が認められた。背脂肪の厚さは、背では差は認められなかったがカタ、セ、コシの三部位平均ではBL・D、BL・HがBL・W、LW・Bより薄く両者の間には5%水準で有意差が認められた。

これはBL・Wではコシ、LW・Bではカタが厚かったためである。ハムの割合はBL・D、BL・W、BL・HがLW・Bより大きく、両者の間には5%水準で有意差が認められた。飼料要求率、ロース断面積および肉色、肉質、脂肪色、脂肪質の審査得点については各区の間に差は認められなかった。枝肉の格付成績は第4表のとおりで、上物率はBL・Hが最も高く次いでBL・D、BL・W、LW・Bの順であった。主な格落要因は、BL・D、BL・W、LW・Bでは脂肪厚に起因するものが多く、BL・Hではウスシによるものがほとんどであった。

3. 要約

パークシャー種系統豚「サツマ」を用いての三元雑種

第4表 枝肉の格付成績

格付	区	BL・D	BL・W	BL・H	LW・B
上		13頭(72.2%)	17(65.4)	32(88.9)	24(53.3)
中		4	6	4	21
並		1	3	0	0

注) 日格係格付。()内は上物率

BL・D、BL・W、BL・H、LW・Bを生産し、これらの産肉能力について比較を行った。結果はいずれも肉豚として良好な成績を示したが、特にBL・Hが優れていた。また、BL雌の繁殖能力はLW雌と比べ、そんなものではないものであった。